

活動実績（2017年12月～2018年5月）

【地域活動】	-自然の色を楽しむコースター作り:3/25(日)
●自然と環境の学習の場創り事業	-沖縄の海岸植物を知ろう:4/15(日)
①緑化活動@漫湖公園：南岸12/16(土)、北岸2/24(土)、北岸4/14(土)、南岸5/26(土)	-キッチンのごみからたい肥を作ろう:5/13(日)
●出前講座	●第3回おきなわ水環境セミナー:1/29(月)
①緑化推進講座@那覇市緑化センター	●イベント出展
-はじめてのクリスマスリースづくり:12/17(日)	①第23回 国場川水あしび:12/16(土)
-アダンの葉で作ろう!手作り小物:1/14(日)	
-木の実でオリジナル小物を作ろう:2/4(日)	

活動予定（2018年6月～11月）

【地域活動】	-サガリバナの育て方:6/10(日)
●サガリバナ観賞会	-アクアプランターで水辺の植物を育てよう:7/15(日) 以降、毎月開催
①国場集落:6/24(日)	②みどりの講演会:7/27(金)
②首里崎山町馬場通り:6/30(土)、7/1(日)	●第4回おきなわエコツーリズムセミナー:10/13(土)
③末吉公園:7/7(土)、8(日)	●団体受入:7/14(土)、7/21(土)、9/15(土)、9/29(土)、11/8(木) ほか、随時受付
●自然と環境の学習の場創り事業	●イベント出展
①緑化活動@漫湖公園：北岸6/9(土)、北岸7/21(土) 以降、毎月開催	①県民環境フェア:10/6(土)
②水辺講座:日時未定	②第24回 国場川水あしび:10月
●出前講座	
①緑化推進講座@那覇市緑化センター	

お知らせ

会員・ボランティア募集

入会申込はホームページからお願いします。緑化活動をお手伝いしてくださるボランティアを随時募集しています。お気軽に電話やメールでご連絡ください。



【国際協力】
●受託事業
① JICA研修員受入事業：課題別研修
- 島嶼水環境の保全と管理:1/15(月)～3/9(金)
②JICA草の根技術協力事業「南東スラウェシ州ワカトビ県における地域に根差した環境保全型観光開発の推進」:2017/3/15(水)～2020/3/31(火)

【国際協力】
●受託事業
①JICA研修員受入事業：課題別研修
-「島嶼観光持続性強化」:7/23(月)～8/24(金)
-「熱帯・亜熱帯におけるエコツーリズム企画・運営」:10/9(火)～11/22(木)
②JICA草の根技術協力事業：「南東スラウェシ州ワカトビ県における地域に根差した環境保全型観光開発の推進」:2017/3/15(水)～2020/3/31(火)

達人デリバリー（出前講座） ミライハ・プロジェクト（団体受入）

お申込み・お問い合わせはこちらまで！
TEL 098-833-9493
E-mail gyomu@npo-oec.com



おばあちゃんから習うアダン葉マット作り体験

特定非営利活動法人 おきなわ環境クラブ

〒902-0075
沖縄県那覇市国場370番地307号室
TEL 098-833-9493
FAX 098-833-9473
ホームページ
<http://www.npo-oec.com>
e-mail kokuba@npo-oec.com
www.facebook.com/OkiEnv

OEC ニュースレター

～ 自然と環境の保全は足元から ～
特定非営利活動法人おきなわ環境クラブ (OEC)

vol.30
2018年6月発行

トピック① サガリバナの季節、はじまる

沖縄の梅雨の季節が終わる6月、照りつける日差しが厳しさを増し、本格的な夏の訪れを感じる頃、夜、サガリバナが一斉に花を咲かせる。

日本では奄美以南の亜熱帯地域に自生するこの植物は、自然の中ではマングローブ湿地の後背地に生える。埋め立てや護岸工事などで自然の生息地を追われつつあるが、公園木や街路樹として植えられていることも多いため、いろいろな場所で目にすることができる。

日没とともに大きく膨らんだ蕾がほころび、おしべが次第に広がりと同時に漂う甘い香りに誘われて虫たちが舞う。目の前で移り変わる植物の命の物語を楽しみつつ、本来の場所だったらどうなのだろうと思いを馳せる。

おきなわ環境クラブでは、6月末から7月上旬にかけて、サガリバナ観賞会を開催する。沖縄ならではの初夏の風

物詩サガリバナを、ぜひ見ていただきたい。

- 国場集落ガイドツアー「夜のサガリバナ観賞会」
6月24日(日)20:00-21:00
定員30名 要申込 参加費300円
- 首里崎山町馬場通(瑞泉通り)「さがり花観賞の夕べ」
6月30日(土)7月1日(日)19:30-21:30
申込不要 来場無料
- 末吉公園「サガリバナ観賞会@末吉公園」
7月7日(土)8日(日)19:30-21:30
申込不要 来場無料



昨年度サガリバナ観賞会の様子

トピック② 出前講座 ご依頼承ります！

OECでは、「達人デリバリー」と称して、自然・環境を楽しく学ぶための講師派遣を行っている。特に、昨年から、那覇市緑化センターのご依頼を受け、緑化推進講座へ年間12回の派遣を行っている。今年度は、「沖縄の海岸植物を知ろう



緑化推進講座(4月)

(4月)」、「キッチンのごみからたい肥を作ろう！(5月)」を実施し、6月から次の内容を予定している。

- ・サガリバナの育て方(6月)
- ・アクアプランターで水辺の植物を育てよう(7月)
- ・植物の不思議発見(8月)
- ・はじめてのテラリウム(9月)
- ・木の実で手作りアクセサリー(10月)
- ・草木染(11月)
- ・うちなー素材でクリスマスリースづくり(12月)
- ・アダン葉小物づくり(仮)(1月)
- ・サガリバナの挿し木と接ぎ木(2月)

- ・ベランダでゴーヤーを育てよう(仮)(3月)
- いろいろな方との出会いが楽しい機会である。
- このほか、今年度は沖縄県緑化推進委員会「みどりの講演会」(7/27)も予定しており、依頼が少しずつ伸びている。
- OECは、皆様の自然体験や環境学習活動をお手伝いするため有料で講師を派遣している。興味のある方は、当クラブホームページ(www.npo-oec.com)の「体験メニュー>達人デリバリー」をご覧ください。
- (事務局長 立田亜由美)



シュノーケリングは島内随一のスポットで



ワークショップで住民グループメンバーと



伝統カヌーは初心者でも大丈夫



ココナッツの殻と葉柄で焼き魚

ダイバー・秘境 ワンギ★ワンギ島通信 No.3 JICA草の根プロジェクト@インドネシア・ワトビ海洋公園

現地入り後、1年が過ぎました。住民グループメンバーは、昨年3回、日本からの来訪者に村自慢を案内しました。その内好評価、好印象のテーマを選び、1月より、各人が数時間のツアー作りに挑戦しています。全てテーマ性のある体験型で、冒険ツアーと文化体験ツアーがあります。後者は、手工芸やおやつ作りの達人が指導し体験する3ツアーです。どれも得意分野を担当するので楽なようですが、「教える」ことは達人にとっても別次元なようで、伝え方の指導に模索の日々です。一目ぼれしてしまうイダさん創作のかわいいバッグ作りは、ポーチの形を決め、ストロー素材を生かした環境メッセージを盛り込み、楽しく環境にやさしいツアーを目指します。マルワティさんのおやつ作りはタロ芋を剥き、電動機で擦ったあと成形し、仕上げていただきます。滅多に食べられないこのおやつ、頬が落ちるおいしさで、近所の人が集まって来るほど！伝統文化継承への貢献を目指します。冒険ツアーは、洞窟探検(2, 3面中央写真)、シュノーケリング、丸太カヌー(4面写真)を企画中です。お楽しみに！



【左】ドキドキしながら擦りおろし機を使う筆者とマルワティさん(左前)
【右】ポーチの色やデザインはお好きなものに！

(研究員 山本朝子)

トピック③ サポーターの声：クロワッサンのお店クイニー



オーナーの山本さん

クイニーは、低価格でオリジナルの本格クロワッサンを提供しているクロワッサン専門店。2013年8月、那覇市首里末吉町にオープンし、今年5周年を迎える。昨年11月には首里の高台から見える絶景と隠れ家をコンセプトに「クロワッサンCafeクイニー」をオープンした。

オーナーの山本さんとは、当クラブが開催しているサガリバナ観賞会へ移動販売車の出店依頼をしたことをきっかけに出会った。

「スタッフ全員が大切にしている“当店の商品で幸せと笑顔を届けたい”と

いう想いを実現していきます。」と山本さん。

「サガリバナ観賞会をはじめ環境活動を広めるためにできることがあれば協力します。」とも語ってくれた。今後も協力関係を続けていきたい。

(研究員 高嶺正満)

トピック④ 緑化活動2018

当クラブでは古波蔵側の漫湖公園ジョギングロード沿いの河岸(北岸)と、鏡原側の河岸(南岸)にある遊歩道沿いで水辺の緑化ボランティア活動を行っている。

セブン-イレブン記念財団から助成を受けることが決まった今年度は苗作りや植栽、除草などを実施する予定だ。4月の



河岸で除草、植栽活動



サガリバナ実生の鉢上げ

活動ではプランターに密生していたサガリバナを育苗ポットに植え替える鉢上げを実施した。

ところで、緑化活動は植栽など自然と触れ合うことで水辺の環境保全を身近に感じてもらうことを目的に実施して



ワンギワンギ島 洞窟探検ツアー調査 小さな入り口からは想像もつかない洞窟の世界

いるが、参加者同士のユンタク(おしゃべり)タイムも楽しむことができる。自然と触れ合いたい方や休憩時間のユンタクに興味がある方は、お気軽にご参加ください。

(研究員 高嶺正満)

コラム マングローブのつばやき 〜その12〜 沖縄で最も壊されたマングローブ湿地



写真1 工場排水によるオヒルギの枯死

沖縄の島々では1972年の日本復帰後、様々な基盤整備事業が今日まで続いている。特に1980～90年代にかけて、埋め立てや護岸の建設、農地基盤整備などの工事が盛んに行われた。この過程で島々の海岸や河口で多くのマングローブ湿地(生態系)がさんざん壊された。

沖縄において水辺の壊され方には、①埋め立てなど「物理的な改変」と②「水質の汚濁」、③「生物的なかく乱」がある。中でも①②による顕著な例として、土砂の堆積と有害物質の流入によるマングローブの枯死や樹形の変化、底生動物への影響が生じた。

90年代の初め、工場排水により西表島の河口でオヒルギ林が一斉に枯れ、宮古島与那覇湾の池原干潟で埋め立てによりヒルギダマシとメヒルギ、オヒルギが消えた(写真1,2)。また、80年代以降、農地基盤整備など陸域の開発工事などにより、沖縄本島中北部や久米島全体の川や海岸、宮古島の大浦湾や与那覇湾、石垣島の崎枝湾と川



【上】写真2 埋め立てで止水状態のヒルギダマシ枯死
【下】写真3 赤土の堆積で餌場を失ったキバウミナ



写真4 土砂堆積に耐え支柱根を広げるヤエヤマヒルギ

平湾、西表島の東海岸において赤土汚濁が顕著になった。

赤土の堆積により、巻貝などの底生動物は餌場を失い、ヤエヤマヒルギやオヒルギは枯死しないものの樹形を変え、撒布体(種子)が活着できない環境になった(写真3,4)。

一方で国場川河口干潟(漫湖)では、人の活動によって流域から集まった泥が川底に堆積して浅くなったためメヒルギをはじめとしたマングローブの生育域が拡大し、これが水鳥の減少の一因とされている。

(会長 下地邦輝)

報告⑩ JICA研修『島嶼水環境の保全と管理』



赤土汚濁測定法の実習

1月15日から約2か月間、2017年度の研修を実施した。カリブやアフリカ、大洋州などの島嶼8カ国とバングラデシュから、水道事業や水環境の保全・管理に携わっている10名の研修員を迎えて、沖縄本島のほか宮古島や石垣島、渡嘉敷島を訪れた。土壌浄化法の講義・見学や生物浄化法、水質検査に関する実習など様々な課目を盛り込み、

研修員たちも積極的に質問するなど熱心に取り組んでくれた。

本研修も6回目となり、今回も多くの団体の方々に講師をお引き受けいただいた。丁寧に対応していただいた皆さまに、改めて感謝申し上げたい。

(理事 平山加奈子)



研修員10名と研修監理員の宮城さん



土壌浄化法の専門家 木村弘子氏

報告② 第3回 おきなわ水環境セミナー

1月29日(月)に水環境セミナーを実施した。毛管浄化システム株式会社代表取締役の木村弘子氏を講師に迎え、日本独自の排水処理システムである「土壌浄化法」について講演していただいた。行政関係者など約

15名が参加し、土壌浄化法の開発に至った経緯や原理、国内外での導入事例などについて熱心に耳を傾けていた。

(理事 平山加奈子)